

災害に備えて

災害は、いつ、どこで、どのように起こるかわかりません。

本町では、台風や大雨などにより急傾斜地の崩壊や河川の増水により堤防の決壊などが予想される日頃の準備が必要であり、「自分のことは自分で守る」という意識を持つことが大切です。いざという時に、あわてず冷静に行動できるように、日頃から災害時の対処について家族でしっかりと確認しておきましょう。

日頃からの心がけ

- 家の周りの危険な所を確認しましょう。
- 家の中や周囲の安全確認（落下・転倒防止・火災防止など）を行いましょう。
- 避難場所や避難経路などを決めておきましょう。
- 家族が離ればなれになった場合の連絡方法なども確認しておきましょう。
- 緊急時の持出品や備蓄品を準備しておきましょう。

緊急時持出品

貴重品（現金・通帳・印鑑・保険証・免許証など）、飲料水、食料（カンパン・ビスケット・チョコレートなど）、懐中電灯、ラジオ、予備電池、ローソク、ライター、マッチ、救急セット、衣類、雨ガッパ、軍手、タオル、救急セット、衛生用品、缶切り、ポリ袋、ビニールシートなど

災害時の避難行動

災害による被害の発生が予想されるときは、その状況に応じて、町から避難勧告、避難指示が出されます。これらの情報は、自治会からや広報車などにより町民の皆さんにお伝えします。速やかに避難行動がとれるように心がけましょう。

○避難準備
気象台などにより大雨・洪水警報が発令されたら、避難の準備をしましょう。

○避難勧告
町から「避難をはじめてください」と避難勧告が出されたら、お互いに助け合って、指定された避難所に速やかに避難をはじめましょう。

○避難指示
町から「直ちに避難をしましょう」と避難指示が出されたら、指定された避難所に直ちに避難をしましょう。

○自主避難
過去の教訓や周囲の異変

から危険を感じた場合は、避難指示を待たずに避難所などに避難しましょう。

※避難時の主な行動

- ・ 自分自身の安全確保
- ・ ガスやストーブなどの火の始末や確認
- ・ 避難時の電気ブレーカー遮断
- ・ 避難経路の確保
- ・ 非常持出品の持ち出し
- ・ 子どもやお年寄りの保護

そのほか、テレビやラジオなどで正確な情報を収集しましょう。



地区名	一時避難場所	電話番号
北落合	北落合小学校	52-2400
落合	落合小学校	53-2423
幾寅	幾寅小学校	52-2311
	南富良野中学校	52-2410
東鹿越	スポーツ研修センター	52-2346
	地域交流センター	避難所開設時に設置
金山	金山小学校	54-2521
下金山	下金山小学校	55-2050

瑞宝単光章を受章

永井 義夫さん（落合）

永年にわたり町の消防団業務に尽力された永井義夫さん（落合）が叙勲（瑞宝単光章）を受章され、8月9日伝達式が行われました。

永井さんは、昭和36年4月に当時の南富良野村消防団に入団以来、班長、部長、副団長を経て昭和57年10月に分団長となり、平成10年7月に退団されるまで37年3ヶ月の永きに渡り消防団員として、町民の生命と財産を守るために尽力されました。

在任中、火災発生時にはいち早く現場に駆けつけ消火活動にあたりました。

また、火災の発生しやすい時期には、夜間の広報により予防活動を実施するなど昼夜問わず断続的な努力をされ、



特に分団長に就任されてからは、団員の教育訓練や指導育成に努められ、出勤時などは、迅速で的確な陣頭指揮を執られました。

これまでも、日本消防協会会長表彰や消防庁長官表彰などを受賞されており、この度の栄誉は、こうした永年の功績が高く評価されたものであります。

永井さんは、この度の受章に「私の人生の半分は消防団でしたので、これからは可能な限り消防業務に協力していきたいと思っております。これまで団員の責務の遂行に協力いただきました皆様に感謝しています」と述べられました。

福島キッズ

南富良野のフィールドを満喫

福島第一原発事故の影響で屋外で遊ぶことが難しい福島県の子どもたち小学3年生30名が、かなやま湖スポーツ研修センターを拠点に8月6日から11日までの6日間滞在し、夏休みを満喫しました。

この事業は、福島県と道内のNPO法人が実行委員会を組織し、「ふくしまキッズ夏季林間学校」を主催し、福島県内で参加者を募集、参加者の希望により1週間から5週間の期間で道内の各受入団体に分散して滞在しました。

町内の受け入れは、NPO法人どんころ野外学校が主体になり、大学生や町内社会人ボランティアも加わり、午前中は宿題や自主学習・自由遊びを行い、午後からはカヌーやラフティング、川遊びや自然探索、プール遊びや室内ミニサッカーなど様々な遊びを体験し、楽しく過ごしました。

福島から引率された実行委員会プログラム総合ディレクター（NPO法人あぶくまエヌエスネット



△役場を表敬訪問した福島キッズ

ト）三瓶稔さんは、「福島県内の子どもたちは地域により違いがありますが、外出の際は、時間制限や長袖・マスクを着用したり、放射線量の高い学校グラウンドでは遊べなかったりと、今までの日常生活とは違った生活になっています。北海道に着いたときも放射線量が心配で、マスクを外せない子がいるくらいです。今回受け入れたいただきました関係者の皆さんに感謝しています」と福島での子どもたちの様子を話してくれました。